

研究分野	資源評価	部名	漁場環境部
研究課題名	アカイカ資源調査		
予算区分	委託 水産総合研究センター		
試験研究実施年度・研究期間	H.3 ～ H.18		
担当	清藤 真樹		
協力・分担関係	(独) 遠洋区水産研究所		

<目的>

春から夏の初漁期においてアカイカ漁業の対象となっているのは東経170度以東の秋季発生中部系群であり、本系群の経年的な資源変動については、1977年から毎年7月に中部太平洋（東経175度30分）において実施された流網調査によりモニタリングされてきた。1999年まで北海道大学水産学部が実施してきたが、2000年より水産庁遠洋水産研究所（現独立行政法人水産総合研究センター遠洋水産研究所）外洋イカ研究室が引き継ぎ、本系群の資源状況及び資源変動機構解明のための調査を進めている。また、本県はアカイカの主水揚げ港を持ち、同期にこの海域で操業する船も多く、この系群の動向を解明することは重要なことである。そこで遠洋水産研究所からの委託を受け、試験船・開運丸により下記の項目を目的として調査を行っている。

- (1) 盛漁期である7月に東経170度以東のアカイカ漁場におけるアカイカ秋季発生中部系群の資源レベルを推定する。
- (2) 盛漁期における海洋構造とアカイカ漁場形成の関係を明らかにする。
- (3) 盛漁期におけるアカイカ触腕の再生個体の出現頻度を明らかにする。また、脱落の状況について情報を収集する。
- (4) カツオ、ビンナガ、カジキ、シマカツオ、アカイカ、サメ、海鳥、イルカの高次捕食者及び小型浮魚類の標本を採集する。

<試験研究方法>

独立行政法人水産総合研究センターからの委託により、当該センター職員が試験船・開運丸に乗船し、備船調査により下記の調査を行う。

- (1) 調査海域：北太平洋公海のアカイカ漁場域（北緯38度30分～47度30分、東経170度00分～175度30分）内（図1）

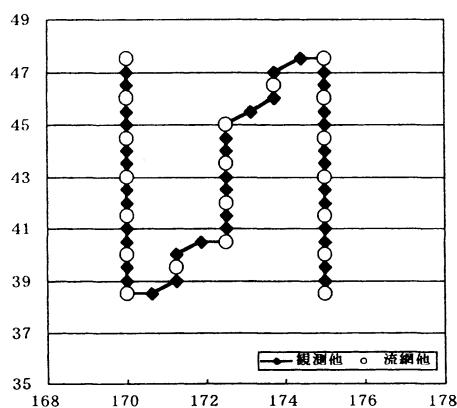


図1 調査点の配置

- (2) 調査期間：平成17年7月5日から8月6日まで

（３）調査項目

- イ）海洋観測：ＣＴＤ観測（水深１，０００ｍ、水温、塩分）、ＡＤＣＰ（流向、流速）透明度、水色、表面水温、クロロフィル分析等
- ロ）流網調査：１３種の目合の流網５０反（調査網３４反、商業網１６反）を用い、日没に投網、日出に揚網を行う漁獲物調査。
- ハ）ノルパックネット採集：観測用ウインチを用い、ノルパックネット（口径４５ｃｍ、長さ１８０ｃｍ、目合０．３５ｍｍ）で水深１５０ｍ～０ｍの鉛直曳き採集を行う。

＜結果の概要・要約＞

（３）の調査項目について、調査員から無線局を通じ調査状況の連絡を受け、毎日遠洋水産研究所他関係機関に報告を行うと共に、全ての調査終了後、観測データ、サンプル等を同所に送付した。

＜今後の問題点＞

本県にとって同海域のアカイカ資源は重要であり、主に操業する中型イカ釣漁船の経営の厳しさを増す中、調査に対する要望は高い。予算の厳しくなる中、公海アカイカの有効利用のためにも調査の効率化を含め事業の継続が望まれる。

＜次年度の具体的計画＞

（１）調査期間：平成１８年６月３０日から８月３日まで

（２）調査目的

- イ）初漁期におけるアカイカ秋季発生群の加入経路と加入モニタリング。
- ロ）イカ釣り漁場における海洋環境

（３）調査項目

- イ）海洋観測：ＣＴＤ観測（水深１，０００ｍ、水温、塩分）、ＡＤＣＰ（流向、流速）透明度、水色、表面水温、クロロフィル分析等
- ロ）流網調査：１３種の目合の流網５０反（調査網３４反、商業網１６反）を用い、日没に投網、日出に揚網を行う漁獲物調査。
- ハ）ノルパックネット採集：観測用ウインチを用い、ノルパックネット（口径４５ｃｍ、長さ１８０ｃｍ、目合０．３５ｍｍ）で水深１５０ｍ～０ｍの鉛直曳き採集を行う。

＜結果の発表・活用状況等＞

発表誌：平成１７年度北太平洋アカイカ資源調査報告書（独立行政法人水産総合研究センター・遠洋水産研究所）